

2026 年度 JICA 青年研修事業 実施概要

1．JICA 青年研修事業とその目的

開発途上国の青年層を対象に、それぞれの国で必要とされる分野における日本（宇部市）の経験・技術を理解する基礎的な研修を実施し、将来の国づくりを担う人材の育成に協力する事業です。その目的として、

1．日本（宇部市）における各分野の基礎的な技術や制度に関する知識を習得する。
2．日本（宇部市）の技術が発展した歴史、経験や文化、社会的な背景を理解する。
3．対象国の開発課題解決への取り組みに資する知識・意識を向上させる。

が掲げられています。

2．本研修の概要

（1） 案件名：都市環境管理 B
（2） 受入国（人数）：アルバニア（1 名）、コソボ（1 名）、モルディブ（3 名）、シエラレオネ（1 名）、ソロモン諸島（2 名）、南アフリカ共和国（1 名）、トルコ（3 名）の7カ国
（3） 受入期間：２０２６年１１月２５日（水）～１２月１０日（木）【１６日間】
（4） 対象者：都市環境管理に携わる中央または地方政府の職員および大学職員
（5） 受入人数：１２名
（6） 使用言語：英語
（7） 実施機関：宇部環境国際協力協会、宇部市

3．各国と宇部市の現状

（1）受入れ対象国の支援ニーズ

受入れ対象国の支援ニーズや研修員の期待内容として次のような事項があります。

- アルバニア：都市環境の改善、自然環境の保全、EU 加盟に向けた EU 環境基準を満たす環境行政の強化
- コソボ：EU 加盟に向けた環境インフラ整備、廃棄物管理能力の向上
- モルディブ：海洋・環礁の環境保全、海洋ごみ対策を含む廃棄物管理、環境意識向上、環境教育の充実
- シエラレオネ：内戦とエボラによる社会インフラ停滞、劣悪な環境保全・廃棄物管理、ごみ起因内水氾濫
- ソロモン諸島：天然資源開発による自然破壊、都市部における廃棄物管理・関連法整備
- 南アフリカ共和国：都市部および都市近郊貧困地域（タウンシップ）の廃棄物管理、海洋ごみ対策
- トルコ：都市インフラの整備・改善、都市環境の改善

こうした各国の様々な研修ニーズを踏まえて、共通の課題である固形廃棄物（ごみ）の管理を中心に講義と見学を実施し、ごみ分別、環境教育・学習、リサイクル事業所の見学のほか、都市計画、都市防災や避難所などについて宇部市の取り組みを紹介します。

（2）宇部市と宇部環境国際協力協会の国際環境協力

戦後の復興期に大問題となった降下煤塵による激甚な産業公害に対して、地域の「産・官・学・民」四者が相互信頼と協調の精神で取り組み、これを克服した活動が「宇部方式」といわれています。この地域ぐるみの自主的な活動が国際的にも高く評価され、宇部市は 1997 年国連環境計画（UNEP）からグローバル 500 賞を受賞しました。宇部環境国際協力協会（宇部アイカ）はこの受賞を契機に翌年 1998 年に設立され、宇部市と連携しながら「宇部方式」を基調とする地球環境保全のための国際協力を継続して進めています。これまで、JICA 青年研修事業、JICA 草の根技術協力事業、自治体国際化協力促進事業などを受託し、海外から研修員を多数受入れて国際的な環境啓発活動を実施するとともに、市民に向けては環境国際セミナーや環境保全技術講座を毎年開催し、市民による国際環境交流や技術交流の取り組みを支援しています。

（3）宇部市の環境技術と知見

国際環境協力において宇部市に期待される環境情報技術は、行政或いは企業による大規模な処理やリサイクルに関するもののほか、日常の廃棄物の分別収集の仕組み、様々な市民活動や学校生徒への環境啓発活動など、広範囲な内容を挙げることができます。また、一般市民が各家庭で実施しているごみ分別やコンポストは身近な実践事例として非常に参考になっています。このような認識のもと、宇部市は「宇部方式」の理念に基づく環境保全行政、地球温暖化対策と環境教育に加えて、2018 年に内閣府から選定された「SDGs 未来都市」による持続可能なまちづくりの取り組みを紹介しています。また、公共施設については資源ごみ

拠点回収施設、環境保全センター・リサイクルプラザ、最終処分場など、一般ごみの分別・収集・処理の流れを現地で紹介しながら説明しています。市内の企業については、様々な事業所が廃棄物関連事業を展開しているなかで、容器包装プラスチックの再生ペレット化工場と食品廃棄物の飼料化工場を見学対象としています。このほか、自治会住民によるごみ分別の推進啓発や市民ボランティアによる様々な 3R（リデュース・リユース・リサイクル）活動など、行政と市民が一体となった活動が紹介できます。また、先進的な取り組みとして、山口大学工学部の専門家による「情報化（生成 AI）で変わる社会と地球環境」に関する講義を新たに準備しました。

4．本研修の案件目標

本研修は案件目標として「日本における都市環境管理に関する基礎的な技術や制度に関する知識の習得および自国の課題解決に向けた意識向上」を掲げており、具体的に次の２項とします。

・日本（宇部市と周辺地域）における地域の環境行政、環境対策の取組を中心とした基本的な知識を学ぶ。
・現場視察、関係者との意見交換等を通じ当該分野に係る日本（宇部市と周辺地域）の経験又は社会背景を学ぶ。

5．本研修の単元目標

１）日本における地域（宇部市）の環境行政の概要、都市計画と環境保全、地方自治体の環境政策と行政、環境教育の基本的な知識を習得し、日本（宇部市）の取り組みと自国の 取り組みの共通点や相違点を理解する。

２）中国地方における地方自治体（宇部市）、民間企業、大学、住民などの協力による環境問題解決に向けた具体的な取り組み事例やグッドプラクティスを学び、自国 の環境課題の解決に向けた今後の具体的な取り組みを検討する。

6．本研修のプログラム

上記単目標を達成するための研修内容として、3.（3）宇部市の環境技術と知見に記載の内容で研修の基本プログラムを構成しています。これに加えて、研修員が世界７ヵ国から１２名と多彩で多様なニーズがあること、および対面研修ならではの特性と利点を踏まえて、プログラムの充実をはかり、最終的に別紙に示す研修プログラムを策定しました。以下に今回の研修で具体的に配慮する事項を列記します。

・開講日のジョブレポート発表会では７ヵ国各国がそれぞれ自国の状況を発表し課題を共有します。
・対面研修ならではの現場視察見学や実習（せかい！動物かんきょう会議・宇部メソッド、ロールプレイングゲーム宇部方式、ごみ分別ゲーム）を取り入ています。
・遠隔地からオンライン講義も採用し、限られた時間の中でより深い理解を促すよう努めています。
・講義は一方向でなく、ディスカッションを取り入れ、質問や議論のための時間を設けています。
・閉講前に総括討議を行い、相互理解を深める機会を設けています。
・閉講日のプログラムレポート発表会では７ヵ国各国がそれぞれ自国の取り組みを発表し共有します。
・到着日翌日午前の JICA 中国センター（東広島市）におけるブリーフィングの機会を利用して、同日午後に広島平和記念公園と平和記念資料館を見学する平和研修を取り入れています。
・週末の休日を利用して、ボランティアの方々とホームビジットによる地域交流活動をおこないます。

7．本研修の実施体制及び運営

独立行政法人国際協力機構(JICA)中国センターが宇部環境国際協力協会に研修業務を委託し、宇部環境国際協力協会が宇部市市民環境部環境政策課とともに研修業務を実施運営します。

8．本研修の受入れ先

本研修は以下の大学、企業、行政機関と関連施設、宇部市役所、宇部市関連団体および宇部市民の協力により実施されます。

・山口大学工学部、・㈱広島企業、㈱アースクリエイティブ、㈱オープンハウス、㈱トマス技術研究所、㈱ヌールエ デザイン総合研究所、・環境省中国四国環境局 広島事務所、・宇部市市民環境部環境政策課、同部廃棄物対策課、同部環境保全センター施設課、同部市民課、同部鵜の島ふれあいセンター、総務部防災危機管理課、同部財産管理課、健康福祉部地域福祉課、土木建設部下水道経営課西部浄化センター、都市政策部公園緑地課、宇部市水道局広瀬浄水場、・北九州市エコタウンセンター、たかみや環境ミュージアム、・公益財団法人 宇部市常盤動物園協会、一般社団法人 宇部観光コンベンション協会、宇部市地球温暖化対策ネットワーク(UNCCA)、宇部市立桃山中学校教諭、宇部市小学校元教員　　＜以上＞